

科 目	子どもと健康	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	永山 寛	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	<p>幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等において、幼児期には大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。</p>		
到達目標	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識・技能を身に付ける。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取り組み態度(主体性やグループワークなど)、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格(C判定以上)となる。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習	
		予 習 ・ 復 習	
1 .	乳幼児期の健康課題：健康の定義と乳幼児を取り巻く生活環境、乳幼児期の健康の意義	予習：幼児期の健康課題について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
2 .	乳幼児の身体の発達の特徴：乳幼児期の身体的発達の特徴、生理的機能の発達	予習：幼児期の身体の発達の特徴について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
3 .	乳幼児期の生活習慣(着脱衣、食事、睡眠、清潔、排泄)の獲得と乳幼児期の基本的な生活リズムの形成とその意義	予習：幼児期の生活習慣について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
4 .	子どもの安全への意識や態度を育むことの重要性と安全管理、リスクとハザードの違い	予習：子どもの安全管理について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
5 .	幼児期の怪我や事故の特徴と応急処置、病気の予防	予習：幼児期の病気や応急処置等について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
6 .	乳幼児期の運動発達の特徴、運動コントロール能力の発達と「多様な動き」の意味と両者の関係	予習：幼児期の運動発達の特徴について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
7 .	日常生活における幼児の動きの経験や配慮、社会の変化と生活の中の身体活動の在り方	予習：社会変化や生活活動について調べる(30分) 復習：本時を振り返る(30分)	
8 .	遊びとしての運動 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方	予習：遊びと運動について調べる(30分) 復習：本科目を振り返る(30分)	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『事例で学ぶ保育内容<領域>健康』(萌文書林)、『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)		
参考書	適宜、資料を配布する		
学習成果の評価方法	受講態度(40%)授業内課題および発表(60%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科 目	子どもと人間関係	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	「人間関係」の目標やねらい内容等を発達や生活および遊びなどと関連付けながら、それらの理論について理解する。人との関わる力の育ちが、人生を支える力になることを理解する。本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	領域「人間関係」の指導法の基盤となる、幼児と人との関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。		
学習成果の評価基準	領域「人間関係」の、幼児と人との関わる力の育ちに関する専門的事項が理解できているか、授業内演習および発表や課題の評価と合わせて定期試験を実施し6割以上正答できる。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	幼稚園・保育所での領域「人間関係」とは 保育者との信頼関係と園生活における安定感を形成する援助の在り方	教科書読んでおくこと	
2 .	自立心を育む援助	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
3 .	遊びの発達と人間関係 3歳未満児、3歳以上児、共同性の育ち	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
4 .	自他の気持ちの違いに気づき、自分の気持ちを整理する力を育む援助の在り方	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
5 .	きまりをめくり様々な幼児の葛藤と援助、ルールのある遊びと援助	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
6 .	道徳性・規範意識の芽生えと保育、個と集団の育ちを考える	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
7 .	保育場面での気になる子どものかかわり 多様な人、多様な子どもとの関わりのなかで豊かに生きる子どもへ	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
8 .	地域社会における人間関係 専門性を持った保育者とは まとめ	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『アクティベート保育学08 保育内容「人間関係」』大豆生田啓友・岩田恵子・久保健太(編著)(2022)ミネルパ書房		
参考書	『イラストで読む!幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』無藤・汐見(著編)(2017)学陽書房		
学習成果の評価方法	試験(50%)その他(授業内レポート・受講態度)50%		
特記すべき事項	保育士(9年) 精神保健福祉士(1年) 各授業において予習30分・復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: miyadi@kyushuotani.online		

科 目	子どもと環境	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	子どもをとりまく環境について、子どもの園生活と環境、自然 動植物の飼育・栽培、社会、科学遊びなどを通して理解する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	幼児がかかわる環境について知り、そのかわり方や意義について学習する。その中で、生き物の飼育や栽培の実際、地域社会の理解などについても映像教材や演習、一部実技学習を通して学習を進める。		
学習成果の 評価基準	授業の課題に取り組み、提出されたプリントを用いて評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	現代の子どもと「環境」、子どもの園生活と「環境」	基礎実習での子どもの様子を振り返る	
2 .	季節と自然	自身の季節と自然とのかかわりについて振り返る	
3 .	生き物の飼育 動物の飼育、昆虫などの関わり	自身の生き物とのかかわりについて振り返る	
4 .	植物の栽培 野菜の栽培、花の栽培	自身の植物とのかかわりについて振り返る	
5 .	里山保育と里山デザイン	自身の里山とのかかわりについて振り返る	
6 .	園生活と家庭生活、公共物・施設・地域、乗り物について	自身の生活サイクルについて振り返る	
7 .	自分でつくって遊ぼう 科学遊び（1）凧を造る、作った凧をあげる	凧の造り方を予習しておく	
8 .	子どもと環境をめぐる展望、まとめ	これまでの授業を振り返る	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書	『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』（無藤・汐見（著編）（2017）学陽書房）、授業中に適宜資料を配布する		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社）		
学習成果の 評価方法	受講態度 40%、授業内課題 60% 随時、課題への取り組みについてフィードバックする。		
特記すべき 事項	各授業において予習30分・復習30分を必要とする。		
質問・相談の 受付	メールにて随時受付 （murakami@kyushuotani.online）		

科目	子どもと言葉	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	人間の証といえる『言葉』の意義と機能について理解した上で、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身につける。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げる基礎的知識を身に付ける。		
学習成果の評価基準	自分の「言葉」に関する感覚を磨き、語彙を広げ、言葉遊びや絵本の読み語り、オノマトペを用いた表現が豊かに出来る。「言葉」の意義と機能の理解度を測るために、授業内発表で評価する		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	人間にとって「言葉」とはなにか?人間にとっての言葉の意義と機能	「言葉」となにか、自分の考えをまとめておく	
2.	「言葉による伝え合い」とは?コミュニケーション機能の理解 「言葉」の持つイメージと体験による言葉の獲得について	言葉遊びを3つ以上調べ、遊んでおく	
3.	子どもの言葉の発達過程 誕生から書き言葉(文字)修得まで、言葉の機能の気づき	発語する時の口の形と舌の位置を確認する	
4.	「言葉に対する感覚」言葉の美しさ、楽しさとは 言葉に対する感覚を豊かにする赤ちゃん絵本の取り入れ方	ブックスタートについて調べておく。	
5.	「言葉に対する感覚」言葉の美しさ、楽しさとは 言葉に対する感覚を豊かにする昔話絵本と童話絵本	昔話絵本と童話絵本について調べておく	
6.	「言葉に対する感覚」言葉の美しさ、楽しさとは 言葉に対する感覚を豊かにする科学絵本と数や量と形	科学絵本について調べておく	
7.	言葉を育て、想像する楽しさを広げる絵本や物語、紙芝居を用いた保育について	ごっこ遊びの役割について調べておく	
8.	絵本を用いた保育の導入について模擬保育を行う	模擬保育の計画・練習をしておく。	
9.			
10.			
11.			
12.			
13.			
14.			
15.			
教科書	『イラストで読む!幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』(学陽書房) 事例で学ぶ保育内容 領域・言葉(萌文書林)		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、厚労省、チャイルド社) 授業中に適宜資料を配布する		
学習成果の評価方法	授業への参加(グループ活動、発表、模擬保育)70% 最終レポート 30%		
特記すべき事項	自分の言葉に対する感覚を磨くため、積極的な授業参加と発表を心がけてください。 卒業必修・幼稚園教諭2種免許必修		
質問・相談等の受付	授業の終わりに直接受け付けます。メールでの質問もどうぞ。		

科目	保育内容の理解と方法	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	橋本真理子・樋口光融・恒賀康太郎・吉柳佳代子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>子どもの心身の発達や環境等と保育指針や教育要領で示される内容を踏まえ、見立てなどの体を使った遊びや表現、身近な自然と音や人の声、音楽に親しむ遊びや表現、身近な自然と色や形、感触やイメージに親しむ遊びや表現、自らが児童文化財に親しむ遊びと表現を豊かに展開するために必要な知識を習得する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(5)に対応する。</p>		
到達目標	各領域について子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識を習得し協働して取り組むことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している子どもの遊びと表現を豊かに展開するための必要な知識を習得しているか、また協働して取り組むことができているかを、課題制作の過程及び成果物から評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス・授業のねらいと進め方について	シラバス・テキストに目を通して おく 本時の内容を振り返る	
2.	子どもの音楽活動と和音 コードネームの基本について学び、コード表記の楽譜から音楽活動の展開を考える。	主要三和音で演奏可能な子どもの 歌を2~3曲弾けるようにしておく。 本時の学びを振り返る	
3.	子どもの音楽活動と和音 ピアノやシロフォンを用いて、コードネームをもとに即興的に演奏する方法を学ぶ。	コードネームを見て和音を即時に ピアノで弾けるよう練習しておく。 本時の学びを振り返る	
4.	子どもの音楽活動と和音 ピアノ、シロフォン、ブームワッカー、シロフォンを用いた音楽活動の展開を学ぶ。	可能な限り多くの伴奏パターンを 演奏できるようにしておく 本時の学びを振り返る	
5.	子どもの音楽活動と和音 和音の理解をもとに楽器を用いた合奏を展開する。相互鑑賞。	コード譜をもとに合奏の計画を考 えておく 本時の学びを振り返る	
6.	粘土に触れ練ったり形をつくったりして遊ぶことを通して、可塑性や感触、水を含む性質を体験的に学ぶ。	作業着、古いタオルの準備 粘土の性質を予習しておく 本時の学びを振り返る	
7.	粘土の性質を利用して、加えたり削ったりするモノづくりの原点に気づき、作るうとする制作物のイメージを固める。	作業着、古いタオルの準備 粘土を練りに慣れておく 本時の学びを振り返る	
8.	粘土による作品のイメージをもとに、どのようにものづくりが行えるかについての方法について理解する。	作業着、古いタオル、いくつかの 完成形の造形イメージを準備して おく。本時の学びを振り返る	
9.	粘土の課題「土鈴」づくりを通じて、鑑賞し合い、相互に作品のよさを認め合うとともに、自己の作品を振り返る。	作業着、古いタオルの準備 作品の見方について知る 本時の学びを振り返る	
10.	提示した絵本を題材にして気に入った場面のイメージを膨らませ、動きによる即興表現をする。少人数によるグループ創作	絵本を読んでくる 本時の学びを振り返る	
11.	身体表現作品づくり1：動きによる場面ごとの即興表現をもとに、「はじめーなかーおわり」のストーリーを構成する。	作品の「はじめーなかーおわり」 の構成を考えてくる 本時の学びを振り返る	
12.	身体表現作品づくり2：動きによる場面ごとの即興表現をもとに、「はじめーなかーおわり」のストーリーの構成をまとめ、動きを完成させる。	作品の「はじめーなかーおわり」 の修正を考えてくる 本時の学びを振り返る	
13.	つくり上げた作品を、何度も繰り返し感じを込めて動く。 発表会及び鑑賞(相互評価)	発表に備えて、思いきり動ける心 身の状態をつくる 本時の学びを振り返る	
14.	保育内容の方法と理解 にむけての見通しを持てるようにするために、過去の「遊びと表現」「幼教こども劇場」を参考にする。	過去の「幼教こども劇場」の動画 を見てくる 本時の学びを振り返る	
15.	保育内容の方法と理解 にむけての見通しを持ち、遊びと表現を豊かにする上で領域が効果的に重なるイメージをもつ。	これまでの授業で学んだことを表 現できるようにしておく 授業全体の学びを振り返る	
教科書			
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』 『保育内容 表現 鈴木みゆき他 光生館』		
学習成果の評価方法	受講態度 ( 40 %) 授業内課題 ( 30 %) 授業内発表 ( 30 %)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談等の受付	おたにオンライン、または各研究室で受け付けます		



科目	音楽表現技術	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・山田俊之	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育者として必要な音楽の基礎的能力を高める。音楽の基礎知識、理論について学びながら、その理解に基づいた音楽表現活動を演習として行う。「ボディパーカッション教育」では、自分の身体を使って、簡単な手拍子を中心に他者と一緒にリズムアンサンブルを作り上げる。		
到達目標	音色、リズム、拍子、音程、ハーモニー、フレーズなどの音楽の要素について理解し、単純なあるいは平易な音楽においてそれらを生かした身体技法としての表現が出来ることが目標である。同時に、楽譜を読み書きする力も身につける。		
学習成果の評価基準	音色、リズム、拍子、音程、ハーモニー、フレーズなどの音楽の要素について理解しており、単純なあるいは平易な音楽においてそれらを生かした身体技法としての表現が出来る。同時に、楽譜を読み書きする力が身につけている。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 音楽の要素、拍と拍子1 読譜力の確認と読譜の基本	シラバス及びテキスト「子どものための音楽表現技術」に目を通しておく	
2.	読譜のポイント(単音・和音) 八長調の主要三和音	「子どものための音楽表現技術」P.6~P.15のChallenge1~5に取り組む	
3.	拍と拍子2 音符と休符・拍の分割	リズム読譜練習。(プリントのリズムを見て打つことが出来るようにする)	
4.	旋律と音程 音階と階名	「おおきなくりの木の下で」「おかあさん」「こいのぼり」を階名で歌えるよう練習しておく	
5.	シロフォンの奏法 わらべうた伴奏づけ	ソルフェージュ(プリント)1~5を階名で歌えるよう練習しておく	
6.	わらべうたの音階と伴奏	「チューリップ」「きらきら星」「こぎつね」を和音で伴奏しながら階名唱できるよう練習しておく	
7.	わらべうたの演奏発表	主要三和音で伴奏できる曲を出来るだけ多くピアノで演奏できるように練習しておく	
8.	主要三和音と旋律 ~和音と旋律の関係	旋律のみの楽譜にピアノで伴奏をつけ、演奏を練習しておく	
9.	主要三和音と旋律 ~編曲と創作	自分で伴奏付けした曲を演奏出来るよう練習する	
10.	和音と伴奏 主要三和音による伴奏づけ	「おちゃらかホイ」「かごめかごめ」の旋律を覚えておく	
11.	伴奏づけ演奏発表	「ひらいたひらいた」「げんこつやまのたぬきさん」の旋律を覚えておく	
12.	楽譜の書き方 音域と移調	「子どものための音楽表現技術」P.154 Challenge42に取り組む	
13.	楽譜の書き方 音域と移調、伴奏形とピアノ譜の作成	プリント移調課題に取り組む	
14.	リズム遊び(ボディパーカッション) ハンカチリズム、手回しリズム、お手上げリズム、ほか	テキスト「幼稚園・保育園deボディパーカッション&リズム遊び」に目を通しておく	
15.	リズム遊び(ボディパーカッション) 「手拍子の花束」、ほか	前時のリズム遊びを復習し、実践できるようにしておく	
教科書	「子どものための音楽表現技術」(萌文書林)、「保育園・幼稚園 de ボディパーカッション&リズム遊び」(明治図書)、「子どもたちの歌」		
参考書			
学習成果の評価方法	授業内の演習に対する意欲態度30%、演習(授業内でのワーク、発表)の評価70%		
特記すべき事項			
質問・相談等の受付	授業時及び研究室に室時に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	音楽実技	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・片岡和代・楠美香・井浦芳恵・藤田桃子・吉賀貴子・中島美保	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために、保育の現場で音楽は欠かすことができない。この授業では主に「こどものうた」及び「こどものうたのピアノ伴奏」の学習を通して実践的に演奏技術、音楽表現力を習得する。個人の音楽経験などによる差異に対応し、小グループあるいは個別に指導を行う。		
到達目標	子どもの想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者に必要な、自身の感性と音楽表現の技術を高める。また、音楽の基礎となるリズム・拍子感や音程感覚を体得し、音価・音高など、楽譜の読み方・書き方に必要な知識も身につける。		
学習成果の評価基準	意欲態度：課題に意欲的に取り組み上達が見られる。課題曲の習得状況：必修課題曲数を保育の現場に耐えうるレベルで演奏できる 歌唱技術：呼吸や体の使い方を体得し曲に応じたコントロールができる。歌唱表現：ことばやフレーズを理解し正確な音程やリズムで表現できる。ピアノ奏法：基本的な奏法を体得し正しい姿勢や運指で演奏できる。ピアノ表現：楽曲の特徴、うたの呼吸や歌詞旋律を意図した演奏表現ができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	使用テキストに目を通しておくこと。	
2.	演習【以下演習～の共通内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ） グループまたは個人指導の形態で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
3.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱とピアノはそれぞれ別個に学習する。（弾き歌いは原則なし）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
4.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：発声について学ぶ。（呼吸、体の使い方とそのコントロール）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
5.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：「子どもたちの歌」掲載曲の歌唱法を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
6.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、強弱等について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
7.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：ピアノの基本的奏法について学ぶ。（姿勢、指の基礎運動、体の使い方等）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
8.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：平易な和音や旋律の曲を用いて、基本的な演奏感覚を身につける。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
9.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：「子どもたちの歌」掲載曲の伴奏法について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
10.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：保育現場において朝夕の集まりでよく演奏される歌の伴奏を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
11.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱について学ぶ	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
12.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
13.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
14.	演習【演習～は共通の内容】（段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ）	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
15.	まとめ（演奏発表・実技試験）	歌唱・ピアノの両方を、より音楽的に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜のこと。	
教科書	「子どもたちの歌」 プリント配布あり		
参考書	子どものための音楽表現技術（萌文書林）		
学習成果の評価方法	意欲、態度20% 課題曲の習得状況20%（終了課題曲数に応じ加点有） 歌唱技術15% 歌唱表現15% ピアノ奏法15% ピアノ表現15% について、授業内での状況を加味した評価各10%、実技試験時のみの評価各5%とする。		
特記すべき事項	毎回の授業には、指示された内容の練習を十分に積んで臨む必要がある。グループごとの受講で、グループにより授業担当講師・受講時間・教室は異なる。履修登録は、全員一括で行う為、特別な事情で履修を希望しない者は、授業担当者（樋口）まで申し出る事。		
質問・相談等の受付	授業時（全体指導時・個別指導時）に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		

科目	音楽実技	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・片岡和代・楠美香・井浦芳恵・藤田桃子・吉賀貴子・中島美保	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	保育の現場では、音楽、その中でも子ども達の歌は欠かすことができない活動である。子どもの経験や想像力を豊かにし、心からのびのびと歌えるために、保育者は、自身の感性と音楽表現の技術を高めていかなければならない。ここでは、1年次の保育内容の理解と方法・音楽実技を基礎に、歌唱及びピアノ演奏についてより学びを深める。		
到達目標	1年次の保育内容の理解と方法・音楽実技を基礎に、より実践的、かつより豊かな音楽的環境を保育の現場に提供できる保育者となることを目指し、歌唱及びピアノの演奏を通して音楽的感性を高め、技術・知識を習得する。ピアノ演奏、うたについてより難易度の高い多くの楽曲を通して学ぶ。		
学習成果の評価基準	意欲態度：課題に意欲的に取り組み上達が見られる。課題曲の習得状況：必修課題曲数を保育の現場に耐えうるレベルで演奏できる。歌唱技術：呼吸や体の使い方を体得し曲に応じたコントロールができる。歌唱表現：ことばやフレーズを理解し正確な音程やリズムで表現できる。ピアノ奏法：基本的な奏法を体得し正しい姿勢や運指で演奏できる。ピアノ表現：楽曲の特徴、うたの呼吸や歌詞旋律を意図した演奏表現ができる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	演習【以下演習～の共通内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ) グループまたは個人指導の形態で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
2.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱とピアノはグループ内でのアンサンブルの形で学習する。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
3.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：発声について学ぶ。(呼吸、体の使い方とそのコントロール)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
4.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：「子どもたちの歌」段階の曲の歌唱法を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
5.	演習【以下演習～の共通内容】 歌唱：ことば、フレーズ、音程、リズムや拍子、速度、強弱等について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
6.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：ピアノの基本的奏法について学ぶ。(運指、体の使い方等)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
7.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：「子どもたちの歌」段階以上の曲の伴奏法について学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
8.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：保育現場において朝夕の集まりでよく演奏される歌の伴奏を学ぶ。	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
9.	演習【以下演習～の共通内容】 ピアノ：正確な読譜、歌の呼吸、旋律、フレーズ、リズムや拍子、速度、音色、テクスチュア、強弱について学ぶ	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
10.	演習【演習～は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
11.	演習【演習～は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
12.	演習【演習～は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
13.	演習【演習～は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
14.	演習【演習～は共通の内容】(段階・継続的に個の状況に応じて学ぶ)	歌唱・ピアノの両方を、正確に演奏できるよう練習を重ねておく。 歌は暗譜のこと。	
15.	まとめ(演奏発表・実技試験)	より音楽的に演奏できるよう練習を重ねておく。歌は暗譜し、ピアノに合わせて練習の事。	
教科書	「子どもたちの歌」		
参考書			
学習成果の評価方法	意欲・態度20% 課題曲の習得状況20%(終了課題曲数に応じ加点有) 歌唱技術15% 歌唱表現15% ピアノ奏法15% ピアノ表現15% について、授業内での状況を加味した評価各10%、実技試験時のみの評価各5%とする。		
特記すべき事項	保育者を志す者は履修を強く薦める。毎回の授業には、練習を十分に積んで臨む必要がある。グループごとの受講で、グループにより授業担当講師・受講時間・教室は異なる。履修登録は、全員一括で行う為、履修を希望しない者は授業担当者(樋口)へ申し出る事。		
質問・相談等の受付	授業時(全体指導時・個別指導時)に直接受け付ける。 また、Google Classroomでも受け付ける。		



科 目	造形表現技術	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	恒賀康太郎	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳幼児の造形活動のよりよき援助者となるため、自己表出・表現を多様な価値・発想・技法のもとに重ねることで、より深く「美術する」ことを学び、創造的に生きることを学ぶ。又、造形活動の上での基礎的な素材・用具を体験し、その管理と扱いについての基本的な知識技能を学ぶ。 本授業は幼児教育学科の学習成果（5）に対応する。		
到達目標	保育者として自己表出・表現を多様な発想のもとに「美術する」ことを学び、基礎的な表現技術を身に付けることができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している多様な発想をもとにした制作が行えているか、また、基礎的な表現技術を身に付けているかを、課題制作の過程及び成果物から評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション：「美術する」こと...絵画表現活動・造形活動の基礎	スケッチブック、鉛筆2B～準備、3原色について調べておく	
2 .	「色彩」：効果を楽しむ～皆違った色を見ている 色の3要素と普遍性	色の3つの要素について調べておく	
3 .	「色彩」：効果を作る 自分の感覚をたよりに...残像効果と心理補色	色の錯覚について調べておく	
4 .	「色彩」：効果を作る 今度はどうする?...色彩の相関性の理解と制作	補色の関係について調べる	
5 .	「色彩」：「私の色」を知る（自分発見）...透明性の錯覚の理解と制作	美しいと思う雑誌のページを数点選んで持参	
6 .	「色彩」：「私の色」を作る（自分発見）...混色・色彩のコントロール	混色と水分量について調べておく	
7 .	描画材・素材からの発想：鉛筆...探究活動の理解と実践及び素材の可能性	鉛筆2B以上 シャープペンシルではなく鉛筆を	
8 .	描画材・素材からの発想：パス類...材料探究と美的探究の理解と制作	クレパスの組成と技法について調べ、動画で予習しておく。	
9 .	描画材・素材からの発想：水彩...素材の表現の可能性の探索	水彩の組成とその利用について調べておく。また以下の技法についての動画で予習しておく。	
10 .	対象からの発想：鉛筆を使って「自然物」を描く...認識的態度の理解	2B～4Bの鉛筆を準備	
11 .	対象からの発想：和紙にはしペンを使って「自然物」を描く...制作	はしペンの準備し、その使い方を調べておく	
12 .	イメージからの発想：色のイメージや歪曲を美術史に見る	錯覚を利用した作品について調べておく	
13 .	イメージからの発想：歪曲方法の理解と明暗方法について知る	どのようにして作られるかについて予習しておく	
14 .	日常にあるものからの審美的視点と創造的視点の表現	日常の素材を利用した造形物について構想しておく。既習の技法を振り返っておく。	
15 .	日常にあるものからの審美的視点と創造的視点の表現	日常の素材を利用した造形活動を調べておく。	
教科書			
参考書	『色彩構成 - 配色による創造 - 』 『あおくんときいろちゃん』レオ・レオニ著 『MY MANY COLORED DAYS』 By Dr. Seuss著		
学習成果の 評価方法	受講態度（20%） 授業内課題（80%）		
特記すべき 事項	各授業において予習30分・復習30分を必要とする。		
質問・相談 の 受 付			

科目	身体表現技術	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	橋本真理子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>幼児の感性や創造性を豊かにする身体表現活動について理解し、その指導のための様々な表現遊びや方法などについて仲間と共に楽しく実践的に学ぶ          本授業は幼児教育学科の学習成果(5)に対応する。</p>		
到達目標	<p>幼児期の身体表現活動を支援するための方法を理解し、自分のからだや動きで様々な表現ができるようになる</p>		
学習成果の評価基準	<p>個やグループの活動や発表の中で、自己評価・相互評価・観察等を通して達成度を評価する</p>		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習	
		予習・復習	
1.	【ガイダンス】 保育者としての「動けるからだの重要性」の理解と実践 領域「表現」の目標とねらい、「身体表現」の特徴や意義、授業の概要の理解	予習：教科書「身体表現」を読んで下調べをしてくる 復習：本時の内容を振り返る	
2.	動けるからだづくり：歩くー走るー止まる いろいろなテーマによる表現：模倣(ミラーリング)「こんなことできるかな」	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
3.	歩くー走るー止まる 模倣(ミラーリング)「新聞紙」	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
4.	ストップモーションいろいろ、伸びるー縮む ポーズABC	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
5.	ストップモーションいろいろ、仲間を感じる リーダーに続け	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
6.	小走り、スロー、素早く、集まるー離れる 変身(動物・忍者)	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
7.	小走り、スロー、素早く、からだ全体を使って 「猛獣狩りに行こうよ」アレンジ(体験型発表)	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
8.	小走り(曲線)スロー、素早く、まわる 「見る」「聞く」(からだ全部をつかって)	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
9.	小走り(曲線)スロー、素早く、まわる、とぶ(飛ぶ・跳ぶ) 「同調」「対立」「群のうごき」	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
10.	ステップいろいろ、動きの三連符 「作品づくりに向けて」「強調」「やさしさ」	予習：動けるからだを準備する 復習：本時の学びを振り返る	
11.	グループ創作(小作品づくり1)： 題材(絵本等)の提示、気に入った場面のイメージ創作や即興表現	予習：作品のイメージを膨らませる 復習：本時の内容を振り返る	
12.	グループ創作(小作品づくり2)： 動きによる即興表現をもとに、ひと流れの動きのフレーズづくり	予習：作品のフレーズを考える 復習：本時の内容を振り返る	
13.	グループ創作(小作品づくり3)： ひと流れの動きのフレーズをもとにストーリーを構成してまとめる	予習：フレーズからストーリーを考える 復習：本時の内容を振り返る	
14.	グループ創作(小作品づくり4)： 作品で表現したいことが伝わるようにグループごとに取り組む	予習：感じを込めて動く大切さを意識する 復習：本時の内容を振り返る	
15.	発表、リフレクション： 感じを込めた動きと相互評価の重要性の理解	予習：発表に向けて意識を高める 復習：「身体表現」の学びの振り返り	
教科書	『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 表現』(光生館)		
参考書	『イラストで読む 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』(学陽書房)		
学習成果の評価方法	受講態度(40%) 授業内課題(20%) 授業内発表(40%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする		
質問・相談等の受付	おおたにオンライン、研究室どちらでも受け付けます		

科 目	保育者論	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本講では、保育者とはどのような位置づけにあるのか、保育者とはどのような職業なのか、保育者に求められる専門性とは何か、の3点を柱に講義を行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	講義を通し、自身がどのような保育者になりたいか、そのためにはどのような学びが必要かを考え、実践に移していく力の基礎を身につけることを目標とする。		
学習成果の評価基準	自身がどのような保育者になりたいか明確にイメージできるようになり、そのためにはどのような学びが必要かを考え、実践に移していく力の基礎が身についているか、授業内演習および発表や課題の評価と合わせて定期試験を実施し6割以上正答できる。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション 保育に求められる力、保育者になることとは	教科書読んでおくこと	
2 .	保育者の仕事と役割 幼稚園、保育園、認定こども園での、保育者の業務について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
3 .	保育者の仕事と役割 保育者の業務について、一日・週・月・年間について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
4 .	保育者になるための学び	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
5 .	保育者に求められる資質とは	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
6 .	保育者の役割(子ども) 特別な支援を必要とする子どもについて	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
7 .	保育者の役割(保護者・家庭) 保護者との関係作りと支援について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
8 .	保育者の役割(クラス運営)(1) 保育計画をどのように立てるか	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
9 .	保育者の役割(クラス運営)(2) 集団の中での子ども達の成長について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
10 .	保育者の役割(地域) 地域における保育者の役割について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
11 .	子どもの育ちの危機と子育て支援	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
12 .	保育者同士の連携、協働 職場関係、職員間の連携について	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
13 .	保育者の生涯発達 学び続ける保育者	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
14 .	保育者とは 自分が理想とする保育者像を考える	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
15 .	まとめ 専門性を持った保育者とは	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
教科書	『コンパス保育者論』上野・米谷(2021)建帛社 『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 はやわかりBOOK』無藤・汐見(2017)学陽書房 『手遊び百科』植田(2006)ひかりのくに		
参考書	『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』文部科学省(著)(2018)		
学習成果の評価方法	受講態度(20%) 授業内課題(20%) 定期試験(50%) 授業内発表(10%)		
特記すべき事項	保育士(9年) 精神保健福祉士(1年) 各授業において予習2時間・復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてきてください。 また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: miyadi@kyushuotani.online		

科 目	教育原理	開講時期 履修方法	1年後期 必修、専門科目
担当者	山田俊之	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	授業のテーマに沿ってテキストや参考資料を使用して講義形式を中心に授業を行う。演習やペア・グループ討議等のアクティブラーニングを取り入れた授業も含む。毎回の授業に対する学生の理解と意欲・関心等を確認するために小レポートを提出してもらう。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	教育の基本的概念や教育の理念について学ぶとともに、教育の歴史や指導に関する基礎的知識を身につけ、過去から現代に至るまでの教育・社会・学校との関わりについて理解できる。		
学習成果の評価基準	教育の基本的概念や教育の理念について学ぶとともに、教育の歴史や指導に関する基礎的知識を身につけ、過去から現代に至るまでの教育・社会・学校との関わりについて理解できていることを、発表、レポート、小論文、定期試験で評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	教育の意義と目的	シラバスに目を通しておく	
2 .	教育を成り立たせる要素と相互関係	配布プリントを読んでおくこと	
3 .	教育の歴史(家族と社会)	配布プリントを読んでおくこと	
4 .	近代教育制度について	配布プリントを読んでおくこと	
5 .	現代社会における教育的課題	配布プリントを読んでおくこと	
6 .	教育の思想(家庭や子ども)	配布プリントを読んでおくこと	
7 .	教育の思想(学校や学習)	配布プリントを読んでおくこと	
8 .	教育の思想(日本や諸外国の教育思想家)	配布プリントを読んでおくこと	
9 .	近年の教育の課題	配布プリントを読んでおくこと	
10 .	教育事情や教育改革の動向	配布プリントを読んでおくこと	
11 .	教育制度の意義・原理・仕組み	配布プリントを読んでおくこと	
12 .	教育制度をめぐる諸課題	配布プリントを読んでおくこと	
13 .	教育経営(学内外との連携)	配布プリントを読んでおくこと	
14 .	現代の教育課題(地域との連携)	配布プリントを読んでおくこと	
15 .	現代の教育課題(学校安全・危機管理)	配布プリントを読んでおくこと	
教科書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚生省、チャイルド社)、参考文献については授業内で適宜指示する。授業に関してはレジュメプリントを配布する。		
参考書	参考文献については授業内で適宜指示する。授業に関してはレジュメプリントを配布する。		
学習成果の評価方法	定期試験(30%) 授業への取り組みと小レポート(40%) 出席状況(30%)		
特記すべき事項	ディスカッションなどの、グループワークを行い評価に加味する。 各授業において予習2時間・復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	随時メールで受け付ける。面談も可能。		



科 目	保育の心理学	開講時期 履修方法	1年前期 必修、専門科目
担当者	岡田健一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この授業は、乳幼児期の子どもの発達を捉える理論を学び、発達を捉える視点を養う授業である。合わせて、子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を学び、主体的な学びを支える人との相互的な関わりや、環境の意義についても理解を深める。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	1．子どもの心身の発達について、基礎的な知識を習得し、発達を捉える視点が育っている 2．子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子ども理解を理解している 3．子どもの学びの家庭や特性について基礎的な知識を習得し、心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎を理解している		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している3点の到達度を測るために、授業内課題と到達度確認テストを実施し、評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授業時間外学習 予習・復習	
1．	オリエンテーション 子どもの発達を理解することの意義	教科書1章を読む	
2．	子どもの発達と環境	教科書1章を読む	
3．	発達理論と子ども観・保育観	教科書1章を読む	
4．	子どもの発達過程：乳児期の発達	教科書2章を読む	
5．	子どもの発達過程：社会情動的発達	教科書2章を読む	
6．	子どもの発達過程：身体的機能の発達	教科書3章を読む	
7．	子どもの発達過程：運動機能の発達	教科書3章を読む	
8．	子どもの発達過程：認知の発達	教科書4章を読む	
9．	子どもの発達過程：言語の発達	教科書4章を読む	
10．	基本的生活習慣の獲得と発達	教科書5章を読む	
11．	子どもの学びと保育：乳幼児期の学びに関わる理論	教科書6章を読む	
12．	子どもの学びと保育：乳幼児期の学びの過程と特性	教科書6章を読む	
13．	子どもの学びと保育：乳幼児期の学びを支える保育	教科書6章を読む	
14．	児童期・青年期の発達	教科書7章を読む	
15．	まとめ	授業で学んだことをまとめ、理解を確認する	
教科書	井戸ゆかり（編著）（2019）：保育の心理学．萌文書林．		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	授業内課題50%、到達度確認テスト50%		
特記すべき事項	各授業において予習2時間・復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、授業後の立ち話か研究室で受け付ける。		

科目	教育・保育課程論	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	山田俊之・庄籠道子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	教育・保育内容の充実と質の向上に資する計画及び評価について理解し、年間指導計画と指導案の作成についてその意義と方法について学ぶ。また、子どもの理解に基づく教育・保育の過程について、その全体構造を捉え、教育・保育カリキュラムの編成方法について実践的な学びを行う。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	1、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解できる。 2、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解できる。 3、領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解できる。		
学習成果の評価基準	1、学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解度を小論文等で見ると判断する。 2、教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法をレポートで判断する。 3、領域・年齢をまたいでカリキュラムを把握し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を定期テスト等で判断する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス 教育・保育課程とは	テキスト,配布資料を読んでおく	
2.	教育課程及びカリキュラムの基礎理論(基本原則と方法)	テキスト,配布資料を読んでおく	
3.	保育における計画と評価の意義の理解	テキスト,配布資料を読んでおく	
4.	子どもの理解に基づく保育の過程の循環による保育の質の向上の重要性の理解	テキスト,配布資料を読んでおく	
5.	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の内容及び社会的背景	テキスト,配布資料を読んでおく	
6.	幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領保育所保育指針における保育の目標と計画の考え方	テキスト,配布資料を読んでおく	
7.	全体的な計画と指導計画の基本的考え方	テキスト,配布資料を読んでおく	
8.	指導計画(長期的・短期的)の作成	テキスト,配布資料を読んでおく	
9.	指導計画作成上の留意点	テキスト,配布資料を読んでおく	
10.	指導計画に基づく保育の柔軟な展開	テキスト,配布資料を読んでおく	
11.	保育の記録及び省察によるカリキュラム計画の理解	テキスト,配布資料を読んでおく	
12.	保育者及び保育所・幼稚園の自己評価の基礎的考え方について	テキスト,配布資料を読んでおく	
13.	保育の質の向上に向けた改善の取り組み(カリキュラム評価)	テキスト,配布資料を読んでおく	
14.	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚幼児幼稚園指導要録と保育所児童保育要録	テキスト,配布資料を読んでおく	
15.	記述式試験		
教科書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』(内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社)、それぞれの解説書		
参考書	授業のテーマ毎に授業資料を配布する。		
学習成果の評価方法	定期試験(60%) 授業への取り組みと小レポート(40%)		
特記すべき事項	ディスカッションなどの、グループワークを行い評価に加味する。 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	随時メールで受け付ける。面談も可能。		

科 目	保育内容総論	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	永山 寛	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	乳幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、遊びを通じた総合的な支援のあり方、幼稚園教育要領等における領域の関連性、乳幼児の発達や興味・関心に基づいた保育の構想等について学ぶ。 本授業は幼児教育学科の学習成果（8）に対応する。		
到達目標	保育の基本的な考え方についての理解や指導計画の考え方についての理解、乳幼児の発達のな特徴を踏まえた保育実践の方法を構想することができる。また、他者と協働する力を持ち、その力を遊びを通して地域社会で活かすことができる（協働性）。		
学習成果の評価基準	授業成績は、授業への取組み態度（主体性やグループワークなど）、知識・技能の確認小テストおよびレポート提出等により総合評価し、総合評価が60%以上で合格（C判定以上）となる。		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	幼稚園・保育所の制度と生活	予習：要領・指針を読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
2 .	遊びを通して何を体験しているか（1）身近な素材で遊ぶ	予習：遊びをイメージする（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
3 .	遊びを通して何を体験しているか（2）遊びを分析する	予習：遊びの意義を考える（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
4 .	幼稚園・保育所の一日	予習：園生活を思い出す（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
5 .	遊びや生活を通して学ぶ	予習：園生活を調べる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
6 .	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本	予習：テキストを読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
7 .	5領域と保育内容	予習：テキストを読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
8 .	発達段階に応じた保育内容（1）グループ討議	予習：テキストを読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
9 .	発達段階に応じた保育内容（2）発表	予習：考えをまとめる（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
10 .	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容（事例から考える）	予習：テキストを読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
11 .	指導計画（長期および短期指導計画）	予習：テキストを読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
12 .	保育内容を深める教材と指導案の作成	予習：テキストを読む（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
13 .	模擬保育の実施と評価（1）グループ発表	予習：発表の準備をする（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
14 .	模擬保育の実施と評価（2）クラス発表	予習：発表の準備をする（30分） 復習：本時を振り返る（30分）	
15 .	自主性・主体性を育む行事の計画と指導	予習：これまでの内容を振り返る（30分） 復習：本科目を振り返る（30分）	
教科書	遊びと生活をひらく保育内容総論（2022）太田光洋・ミネルヴァ書房 幼保連携型認定こども園教育・保育要領等		
参考書	適宜、資料を配布する		
学習成果の評価方法	受講態度（40%）、授業内課題および提出物（30%）、定期試験・レポート（30%）		
特記すべき事項	実際に屋内外にて身体を動かす場面があるため、体調管理には留意する 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問、相談については、授業前後に授業場所あるいは研究室にて受け付ける		

科 目	保育内容・言葉	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	吉柳佳代子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>幼児の言葉のやり取りに対する意欲や態度、表現に興味を持ち、領域「言葉」のねらい及び内容について理解を深める。幼児の発達に即して「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする」主体的・対話的学びを具体的な保育場面を想定し、構想する力を身につけることを目標とする。子どもの「言葉」の発達と領域のねらいを段階ごとに提示しながら、言葉遊びを始め、その指導法や関わりを考察する。情報機器を活用した児童文化教材作成と模擬保育を通して保育を構想する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。</p>		
到達目標	<p>（1）幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 （2）幼児の発達や学びの過程を理解し、情報機器及び教材等を活用し主体的・対話的な学びが実現される過程を踏まえて領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育方法を構想する力を身につける。</p>		
学習成果の評価基準	領域「言葉」のねらい及び内容、保育方法の理解度を測るために、授業内発表で評価する		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	ガイダンス、保育における領域「言葉」について言葉を豊かにする教材（児童文化教材）について考察する	「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を予習する	
2 .	言葉を豊かにする教材（児童文化教材）の作成と模擬保育の計画	児童文化教材作成準備をする	
3 .	言葉を豊かにする教材（児童文化教材）の作成と模擬保育の計画・練習	児童文化教材作成と保育導入計画の作成	
4 .	言葉を豊かにする教材（児童文化教材）を使った模擬保育	作成した児童文化教材を使って模擬保育の練習をしておく	
5 .	言葉を豊かにする教材（児童文化教材）を使った模擬保育の振り返り	模擬保育の振り返りと改善策を考察する	
6 .	言葉を育む環境と援助（1）言葉の始まりと愛着関係	愛着形成と新生児の言葉の発達について予習しておく	
7 .	言葉を育む環境と援助（2）好奇心と発見が促す言葉の発達	子どもの体の発達について身長や体重を調べておく	
8 .	言葉を育む環境と援助（3）身体と感覚を使った保育が促す言葉の発達	感覚を使った遊びを調べておく	
9 .	言葉を育む環境と援助（4）ファンタジーの世界・ごっこ遊びが広げる言葉の発達	ごっこ遊びについて調べておく	
10 .	言葉を育む環境と援助（5-1）自分の気持ちを伝えられるための援助について	自分の気持ちを分かってもらえたと感じるときはどんな時かまとめておく	
11 .	言葉を育む環境と援助（5-2）幼児が互いの思いを伝えあうようになるための保育者の援助について（事例を基にしたワークブックを活用し理解する）	ワークブックの予習をしておく	
12 .	言葉を育む環境と援助（6）保育現場の様子から、子どもの言葉を育む保育について考察する	教育実習での保育者と子どものやり取りを記録しておく	
13 .	言葉を育む環境と援助（7）言葉や発達の遅れ、多様なニーズを持つ子どものコミュニケーションを育む保育について考察する	言葉の発達を促す手法や教材について調べておく	
14 .	子どもの言葉を育む保育の計画を考える	指導案・教材を考える	
15 .	子どもの言葉を育む保育の計画の発表とディスカッション	発表の準備とディスカッションの振り返り	
教科書	『（新訂）子どもと言葉』岡田明（編）萌文書林		
参考書	『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』（内閣府、文科省、厚労省、チャイルド社） / 『ことばが育つ保育支援』『絵本の魅力その編集・実践・研究』『幼児教育のデザイン』		
学習成果の評価方法	授業態度（グループ討議・全体討議・模擬保育・教材作成など）60% 単元毎の小レポート 10% 最終レポート（授業での学びの振り返りと今後の展開）30%		
特記すべき事項	保育士資格取得必修・幼稚園教諭2種免許必修 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	授業後の時間に声をかけてください。		



科目	臨床心理学（特講）	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	臨床心理学における心理療法・カウンセリングの基本を理解し、愛着の問題や児童虐待などの心的外傷に関する支援方法を学ぶ。 本授業は幼児教育学科の学習成果（心理）に対応する。		
到達目標	愛着の問題や児童虐待などの心的外傷のある子どもに見られる特徴を理解し、早期に気づくことができるようになる。また、子どもへの心理的支援および保護者への対応について理解する。自分史を振り返り、保育者としての課題を見つけることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している心的外傷のある子どもへの理解と支援に関する学習の達成度を測るために、到達確認テストを実施し評価する。また、自分史の作成も評価の対象とする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	こころの仕組みと保育	シラバスを確認しておく	
2.	心理療法の基本的な考え方 精神力動論的立場	フロイトの理論を復習する	
3.	心理療法の基本的な考え方 認知行動論的立場	学習理論を復習する	
4.	心理療法の基本的な考え方 人間成長論的立場	マズローの欲求段階説を予習しておく	
5.	保育心理士におけるカウンセリング	相談しやすい人が持つ共通の特徴について、考えを整理しておく	
6.	カウンセラーの基本的な態度	配布資料を復習する	
7.	カウンセリングの様々な技法	配布資料を復習する	
8.	愛着理論 アタッチメントとストレンジシチュエーション	愛着について1年前期に習ったことを復習しておく	
9.	愛着理論 愛着障害	愛着障害について復習する	
10.	愛着理論 愛着障害に対する対応と支援	愛着障害と発達障害の鑑別のポイントについて復習する	
11.	トラウマ理論 単回性トラウマとファーストエイド	ファーストエイドの実践を人形等を用いてやってみる	
12.	トラウマ理論 慢性反復性トラウマ	児童虐待の現状について、これまで学習したことを整理しておく	
13.	児童虐待 チャイルドマルトリートメント	しつけと虐待の違いについて意見をまとめておく	
14.	児童虐待 事例検討	配布資料を読み込み、レポートを作成する	
15.	児童虐待 事例検討ふりかえり	配布資料を読み込みレポートを作成する	
教科書	なし		
参考書	なし		
学習成果の評価方法	受講態度（10％）授業内課題（50％） 【自分史作成レポート】（40％）		
特記すべき事項	臨床心理士として11年の実務経験 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	研究室に質問に行く		

科目	教育実習指導	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・宮地あゆみ	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	「教育実習」と一体的に行うものであり、教育実習の事前指導、事後指導として実施する。教育実習の意義を理解するとともに、事前指導では、教育実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果や課題等を省察するとともに、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき技能や知識等について理解する。本授業は幼児教育学科の学習成果(4)に対応する。		
到達目標	教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚した上で意欲的に教育実習に参加することができる。また、教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、幼稚園教諭免許取得までにさらに習得する事が必要な知識や技能等を理解する。		
学習成果の評価基準	1.実習の意義や重要性について理解できた。 2.教育実習に臨む意欲を高める事ができた。 3.教育実習に必要な準備を滞りなく行う事ができた。 4.教育実習を通して得られた知識や経験について記録にまとめ振り返ることができた。 5.今後学びを深めたい事について明確にする事ができた。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス、教育実習の意義	シラバス並びに幼稚園教育要領解説に目を通す	
2.	実習に必要な準備と手続きについて、遵守すべき義務	配布プリントに目を通しておく	
3.	実習園の特色等について	実習園について、Web・求人情報等で情報収集を行っておく	
4.	実習生の一日	実習手続きに必要な書類の準備と提出	
5.	事前打ち合わせについて	事前打ち合わせで得るべき情報についてリストアップする	
6.	記録の取り方	前期「実習基礎演習」の資料と記録を見て振り返っておく	
7.	記録の取り方	日誌練習記入の清書を行う	
8.	実習の自己目標確認	実習で学びたいことを明確にしておく	
9.	実習期間中の帰校日：実習前半の振り返りと後半に向けた目標再設定を行う	実習記録を整理しておく	
10.	実習期間中の帰校日：実習前半を終えての学びや課題の共有を行う	実習前半を振り返り、学びや課題を明確にしておく	
11.	実習の振り返りを行い、自己の学びや課題を明確にする。	実習記録を整理しておく	
12.	実習での学びと課題の共有、お礼状の書き方	お礼状を書き園に持参する	
13.	教育実習 に向けての学びについて	これから学びたいことを明確にする	
14.	実習報告書の作成	報告書の仕上げ	
15.	報告書に基づく発表とまとめ	実習及び実習指導全体を振り返り今後の意欲につなげる	
教科書	幼稚園教育要領解説、プリント配布		
参考書			
学習成果の評価方法	授業に臨む姿勢・態度30%、授業内課題(実習書類提出等を含む)70%		
特記すべき事項	各授業において授業外での実習に向けた準備学習に60分程度を必要とする。		
質問・相談等の受付	実習開始前・終了後については、実習指導時並びに研究室在室時に随時受け付ける。Google Classroomにおいても受け付ける。実習期間中は、開始前に知らせる実習担当者携帯電話またはメール等で受け付ける。		

科目	教育実習	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	樋口光融・宮地あゆみ	授業形態 単位数	実習 2単位
授業概要	幼稚園または認定こども園（幼稚園部分）において2週間の実習を行う。実習園は、実習時期を考慮し、大学が事前に選定し内諾を取った上で学生の居住地や通学手段等を考慮して割り当てる。実習を通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来保育者になる上での能力や資質を高め課題を自覚する。幼児教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。 本授業は幼児教育学科の学習成果（6）に対応する。		
到達目標	観察・参加を通して、子ども理解を深めるとともに、幼児の園での生活の実態や課題を把握する。 幼稚園教諭の在り方や姿勢について具体的に学び、保育の補助的な役割を担うことができる。 学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施する為の教諭の職務や組織体制について理解する。		
学習成果の評価基準	1.幼稚園における教育の目的に関して理解を深めた 2.幼稚園における教育の対象に関して理解を深めた 3.実習生としての自覚に立って意欲的に取り組んだ 4.職員や他の実習生と協力的であった 5.勤務状況が良好である 6.保育者としての愛情や人間性等の重要性が理解でき、実践に活かそうと心掛けた		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
	<p>事前指導及び事後指導（教育実習指導）と一体的に実施する。</p> <p>実習開始前に園に出向き、事前打ち合わせを行う。ここでは、園の実習指導担当者等に、実習園の概要や実習配属クラス等を尋ね、実習園について理解を深めるとともに、実習に向けた準備の為に必要な情報を得る。</p> <p>実習期間中は、主に以下の内容について実践し学びを深める。</p> <p>（1）観察及び参加並びに実習園の理解に関する事項</p> <p>幼児とのかかわりを通して、その実態や課題を把握する。 実習園の教諭が実施する保育を視点を持って観察し、事実に即して記録する。 実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施する為の組織体制について理解する。 教諭（学級担任等）の補助的な役割を担う。</p> <p>（2）保育内容の指導及び学級経営に関する事項</p> <p>幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導について、観察・参加を通して学ぶ。 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境校正など）を実地に則して身につける。 学級担任等の役割と職務内容を实地に則して理解する。 様々な活動の場面で適切に幼児と関わる。</p>		<p>実習に向けて、自身が実習で学びたいこと、積極的に取り組みたいことを明確にして臨むこと。</p> <p>「教育実習指導」における内容をよく振り返り、事前提出書類、準備物、身だしなみ等の準備をぬかりなく行う事。</p> <p>実習期間中は、毎日1日の振り返りを行い、日誌の記入、記録の整理を行う事。</p> <p>実習期間中は、実習担当教諭や園の先生方の指導・アドバイスを謙虚に受け止め、振り返りに基づく具体的目標の再設定を行うこと。</p> <p>実習終了後は、実習全体の振り返りを行い、記録をまとめるとともに、課題等を明確にすること。</p> <p>（予習・復習に30時間必要）</p>
教科書	幼稚園教育要領解説、プリント配布		
参考書			
学習成果の評価方法	実習園における評価（知識・技能 実習態度 総合評価）80% 事前事後の評価（日誌等の提出物評価を含む）20%		
特記すべき事項	実習園によっては、別途給食費等の負担がある場合もあります。		
質問・相談等の受付	実習開始前・終了後については、実習指導時並びに研究室に室時に随時受け付ける。Google Classroomにおいても受け付ける。 実習期間中は、開始前に知らせる実習担当者携帯電話またはメール等で受け付ける。		

科 目	子どもの保健	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	小川理紗	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	子どもの健やかな発育を支え、子どもの命を守っていくための保育を、保育活動・保健活動の視点から学ぶ。疾病予防・健康増進について、養護の観点からも理解するために、乳幼児から幼児期の成長発達を学び、子どもの保健に関する知識を習得する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（1）に対応する。		
到達目標	1. 子どもの発育・発達について学び、心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの心身の健康状態の把握の方法・疾病とその予防法及び対処法を理解する。 3. 子どもの健康増進・疾病予防における他職種間連携・協働の必要性を理解する。		
学習成果の 評価基準	授業の中で、子どもの健康に関する課題レポートを提示したり、意見を求めたりする。 授業に臨む態度やレポート提出の内容などを基に評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	教科書 第1講、配布資料	
2 .	健康の概念と健康指標	教科書 第2講、配布資料	
3 .	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策	教科書 第3講、配布資料	
4 .	地域における保健活動と子ども虐待防止	教科書 第4講、配布資料	
5 .	身体発育および運動機能の発達と保健	教科書 第5講、配布資料	
6 .	生理機能の発達と保健	教科書 第6講、配布資料	
7 .	健康状態の観察および心身の不調等の早期発見	教科書 第7講、配布資料	
8 .	発育・発達の把握と健康診断、健康教育	教科書 第8講・第15講、配布資料	
9 .	保護者との情報共有	教科書 第9講、配布資料	
10 .	主な疾病の特徴 新生児の病気、先天性の病気	教科書 第10講、配布資料	
11 .	主な疾病の特徴 循環器、呼吸器、血液、消化器の病気	教科書 第11講、配布資料	
12 .	主な疾病の特徴 アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気	教科書 第12講、配布資料	
13 .	主な疾病の特徴 脳の病気、その他の病気	教科書 第13講、配布資料	
14 .	主な疾病の特徴 感染症	教科書 第14講、配布資料	
15 .	子どもの疾病の予防と適切な対応	教科書 第15講、配布資料	
教科書	子どもの保健 中央法規出版		
参考書	なし		
学習成果の 評価方法	課題（20％）、受講態度（20％）、定期試験（60％） その都度教員によるフィードバックを実施する。		
特記すべき 事項	実務経験 看護師（11年）、保健師（3年） 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等 の 受 付	授業内もしくは研究室		



科 目	子どもの食と栄養	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	彌永清子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	栄養に関する基礎的知識、子どもの発達段階に応じた栄養特性と食生活の重要性を学ぶ。さらに、食生活を含め子育て支援を行う専門職として、適切な食生活指導を行うことのできる応用力を養う。 本授業は、幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	1 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する 3 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する 5 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している1~2の達成度を測るために、受講態度(積極的なグループ活動等)、授業内課題(プリント提出率)、定期試験での評価を行う。 なお、評価基準は次の通り。S(90~100点)A(80~89点)B(70~79点)C(60~69点)D(59点以下)		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	オリエンテーション・子どもの健康と食生活の意義	子どもの健康と食生活の意義についてテキストを読み込む	
2 .	子どもの心身の健康と食生活 ~子供の発育・発達と食生活~	子どもの発育・発達について他教科での内容と併せて考えてみる	
3 .	子どもの食生活の現状と課題・世界の子どもの食生活	子どもの食生活の現状を調べる	
4 .	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 (エネルギー・炭水化物・たんぱく質・脂質)	栄養素とそれを含む食品を調べる	
5 .	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 (ビタミン・ミネラル)	栄養素とそれを含む食品を調べる	
6 .	栄養に関する基本的知識 (食事バランスガイド・6つの基礎食品・三食食品群)	食事バランスガイド・6つの基礎食品・三食食品群について調べてみる	
7 .	栄養に関する基本的知識 (食事摂取基準)	食事摂取基準について調べる	
8 .	栄養に関する基本的知識 (献立作成と調理の基本について)	日常の食事内容を確認し、栄養バランスを意識してみる	
9 .	衛生管理(食中毒の種類とその予防)、食品の表示制度	食中毒の過去の事例について調べる	
10 .	献立作成 (幼児期に必要な栄養素を考慮した献立作成)	幼児期に必要な栄養素について調べる	
11 .	献立作成 (幼児期に必要な栄養素を考慮した献立作成)	幼児期に必要な献立を考える	
12 .	献立作成 (幼児期に必要な栄養素を考慮した献立発表)	作成した献立の発表準備を行う	
13 .	妊娠・授乳期の栄養と食生活	妊娠期の食事と胎児の関係についてまとめる	
14 .	乳児期の栄養と食生活	乳児期の栄養の種類と選択について調べる	
15 .	前期授業のまとめ(復習)	教科書、配布資料の整理と復習をしておく	
教科書	著者代表 森脇千夏「イラスト子どもの食と栄養」 東京教学社		
参考書	日本人の食事摂取基準2020年度 「授乳・離乳の支援ガイド2019年」厚生労働省		
学習成果の評価方法	受講態度(10%) 授業内課題(30%) 定期試験(60%)		
特記すべき事項	管理栄養士として12年の実務経験を有する。 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付	「九州大谷Online」のclassroomで質問相談等の受け付けを行う。		

科 目	子どもの食と栄養	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	彌永清子	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	<p>食育基本法を理解し、幼児期から老年期におけるライフステージに応じた食生活について学ぶ。また、食育の推進について実践力を養う。特別な配慮を要する子どもの食と栄養について、現状とその対応を理解する。 本授業は、幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。</p>		
到達目標	<p>1 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する 2 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する 3 養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する 4 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する 5 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している3～5の達成度を測るために、受講態度(積極的なグループ活動等)、授業内課題(プリント提出率)、定期試験での評価を行う。 なお、評価基準は次の通り。S(90～100点)A(80～89点)B(70～79点)C(60～69点)D(59点以下)</p>		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	ライフステージ別の栄養と食生活 「授乳・離乳の支援ガイド」について	授乳・離乳期の食生活の問題点について調べる	
2 .	ライフステージ別の栄養と食生活 離乳期の栄養・離乳食介助のポイントについて	授乳・離乳期の介助のポイントについてまとめる	
3 .	ライフステージ別の栄養と食生活 離乳期の食形態を確認し、ベビーフードの試食をし、レポートにまとめる	離乳期の食形態を確認し、レポートにまとめる。	
4 .	ライフステージ別の栄養と食生活 幼児期の栄養・栄養学的特徴について	幼児期の栄養・栄養学的特徴についてまとめる	
5 .	食育のための環境・食生活指導・食を通じた保護者への支援 第1～4までに学んだことをいかし、お便りを作成する	媒体作成の準備を行う	
6 .	ライフステージ別の栄養と食生活 学童期～高齢期の栄養について	保育所における食育の具体的な内容や方法を調べる	
7 .	食育の基本と食育支援 保育所(幼稚園)・学校における食育の推進について	実習施設の給食献立をチェックしておく	
8 .	食育の基本と食育支援 食育基本法の概要と食育推進基本計画の概要	保護者への情報提供、コミュニケーションの方法を考えてみる	
9 .	幼児を対象にした食育の実践 幼児を対象にした食育の実践・指導案作成	幼児における食育の具体的な内容や方法を調べる	
10 .	幼児を対象にした食育の実践 食育計画・評価・環境作り・連携・保護者への支援について 幼児を対象にした食教育の実践を行う。媒体作成	食育を行うための媒体作成の準備を行う	
11 .	幼児を対象にした食育の実践 幼児を対象にした食教育の実践を行う。媒体作成	食育を行うための媒体作成の準備を行う	
12 .	幼児を対象にした食育の実践 作成した紙芝居を使い発表する	媒体を使用した食育を行う準備をする	
13 .	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	子どもにとって望ましい食生活の意義についてまとめる	
14 .	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(障害のある子ども・アレルギーのある子どもへの対応)	食物アレルギーについて情報収集する	
15 .	食物アレルギーの基本的知識	食物アレルギーの種類・症状・原因物質をまとめる	
教科書	<p>著者代表 森脇千夏「イラスト子どもの食と栄養」 東京教学社 その他(幼児期の保育と食育 芽ばえ社)など</p>		
参考書	<p>「授乳・離乳の支援ガイド2019年」厚生労働省 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」厚生労働省2019年</p>		
学習成果の評価方法	<p>受講態度(20%) 授業内課題(20%) 定期試験(60%) 復習問題の課題プリントは次回授業にてフィードバックする</p>		
特記すべき事項	<p>管理栄養士として12年の経験を有する 各授業において予習30分、復習30分を必要とする。</p>		
質問・相談等の受付	<p>「九州大谷Online」のclassroomで質問相談等の受け付けを行う。</p>		

科目	保育原理	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	宮地あゆみ	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	保育者となる上で、保育に関する最も基礎的な事項を学ぶと共に、保育の専門家としての自覚の深化を促す授業である。本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	保育の意義及び目的、保育に関する法令及び制度、保育所保育指針における保育の基本、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について理解する。新たな時代における保育の意味を問うことを通し、これからの保育の在り方や保育者としての課題、解決する能力を獲得する。		
学習成果の評価基準	保育の在り方や保育者としての課題を理解し解決する能力が身についているか、授業内演習および発表や課題の評価と合わせて定期試験を実施し6割以上の回答ができる。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育の理念と概念	教科書読んでおくこと	
2.	子どもの最善の利益と保育	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
3.	子ども家庭福祉と保育および保育の社会的役割と責任	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
4.	法体系における保育の位置付けと関係法令	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
5.	子ども・子育て支援新制度と保育の実施体系	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
6.	保育所保育指針における保育の基本	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
7.	保育所保育に関する基本原則および保育における養護	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
8.	保育の目標	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
9.	保育の内容	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
10.	保育の環境・方法	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
11.	子どもの理解に基づく保育の過程とその循環	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
12.	保育の思想と歴史の変遷	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
13.	日本の保育の思想と歴史および現状	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
14.	諸外国の保育の思想と歴史および現状	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
15.	まとめ	教科書や配布プリントに目を通しておくこと	
教科書	『保育の学び—ファーストステップ—』瀧川・小栗・宮地(編) 『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』無藤・汐見(著編) 『保育・幼稚園教育・子ども家庭福祉辞典』中坪他		
参考書	『保育の原理と方法』太田・小栗・宮地 編 (2018) 保育出版会		
学習成果の評価方法	受講態度(20%) 授業内課題(20%) 定期試験(50%) 授業内発表(10%)		
特記すべき事項	保育士(9年)、精神保健福祉士(1年) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問がある場合は、授業終了後もしくは研究室へ訪ねてきてください。また、メールでの問い合わせも可能です。G-mail: miyadi@kyushuotani.online		

科目	社会福祉	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	本講義においては、生活者の視点に立った保障・福祉のサービス内容が理解できるように、支援を必要とする者に対する各種制度を中心に事例をあげて講義していく。 また、社会福祉の専門職として、必要な相談援助の理論から方法までを学修する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	社会福祉の制度と内容について、基本的事項を理解することができる。 相談援助の方法について、基本的な事項を理解することができる。 現在の福祉の課題と動向を理解することができる。 社会福祉における子どもの家庭支援の視点についてりかいすることができる。 社会福祉におえる利用者の保護に関わる仕組みについて理解することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している社会福祉の制度と内容の理解、相談援助の方法、福祉の課題と動向を理解することができる、子ども家庭支援の視点、利用者の保護に関わる視点の達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。また、予習復習による理解度を図るためにも授業内での質問などの積極的授業態度をもって評価とする。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	社会福祉の理念と歴史的変遷について / 生存権、ナショナルミニマム、ノーマライゼーション等の説明とその歴史的展開	福祉の目的とは何か、自の意見をもって講義に臨み、理念、目的を整理すること	
2.	子ども家庭支援と社会福祉について / 児童の健全育成とそのため家庭支援の必要性	健全育成の意味を調べ、家庭の子どもの発達への影響を整理すること	
3.	社会福祉の制度と法体系 / わが国の社会福祉に関する法律	福祉六法、児童福祉六法を構成する法律を調べて、整理すること	
4.	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等 / 福祉事務所、福祉施設の種類と役割	国、都道府県、市町村、福祉施設の役割をテキストで事前確認し整理すること	
5.	社会福祉の専門職 / 社会福祉の資格と役割、児童福祉施設に配置される専門職の内容	専門職の種類と名称をテキストで調べ、その役割を整理すること	
6.	社会保障および関連制度の概要 / 社会保障の概要と生活保護、社会保険等	憲法25条と社会保険の制度名をノートに書き出し、その目的を整理すること	
7.	相談援助の理論 / ソーシャルワークの理論	ソーシャルワークとは何か、テキストを読み、援助の種類を整理すること	
8.	相談援助の意義と機能 / ソーシャルワークの原則と支援の方法	ケースワーク、グループワークとは何かをテキストを読み、援助の方法を整理すること	
9.	相談援助の対象と過程 / 保育における子ども、保護者、地域支援	コミュニティワークとは何かをテキストを読み、援助の方法を整理すること	
10.	相談援助の方法と技術 / 保育現場における支援活動のモデル	ジェネラリストソーシャルワークとは何かを調べ、援助の過程を整理すること	
11.	利用者の保護にかかわる仕組み / 権利擁護にかかわる制度 / 情報提供と第三者評価 / 人権擁護と苦情解決	人権と権利保障についてその制度をテキストで確認し、整理すること	
12.	少子高齢社会における子育て支援 / 少子化対策における保育支援の役割拡大と課題	保育における少子化対策に関する法律名を把握し、内容を整理すること	
13.	共生社会の実現と障がい者施策 / 障がいのとらえ方とインクルージョンの理念、制度	障がいとは何かを意見をもって講義に臨み、福祉的という障がいを整理すること	
14.	地域福祉の推進 / 地域福祉の考え方と在宅支援の実践	地域福祉計画と活動計画の趣旨を確認し、地域福祉の内容を整理すること	
15.	諸外国の福祉の動向 / イギリス、ドイツ、アメリカ等の社会福祉制度	福祉国家の先進例を調べ、課題も整理すること	
教科書	田畑洋一 他著「社会保障」第3版 学文社		
参考書	「国民の福祉と介護の動向」厚生統計協会編 必要に応じ、プリント資料を配布する。		
学習成果の評価方法	授業内課題(20%)、定期試験(80%)、単元ごとに、復習問題を実施し課題のフィードバックを行います。		
特記すべき事項	福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		



科 目	子ども家庭福祉	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	子ども家庭を取り巻く現状を整理し、子どもの発達を保障する具体的な支援施策を学習していく。なかでも、人権侵害や貧困による権利侵害等の多様な事象に触れ、その支援に対する方策について教示していく。 本授業は幼児教育学科の学習成果(1)に対応する。		
到達目標	子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷、子どもの人権擁護について理解することができる。また、各種制度や実施体系等を理解し、子ども家庭福祉の現状と課題、さらには同行と展望について理解することができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している内容の達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	子ども家庭福祉の理念と概念 児童の最善の利益と子ども家庭福祉の概念を考察する	児童福祉法1 - 2条に目を通し最善の利益について整理しておくこと	
2 .	子ども家庭福祉の歴史の変遷 歴史的展開と現代社会の子ども家庭福祉	子どもの貧困とは何かを調べ、相対的貧困の意味を整理しておくこと	
3 .	子どもの人権擁護 子どもの人権擁護の歴史の変遷と児童の権利に関する条約並びに現代の擁護規定と課題	子どもの権利条約に至る背景をテキストで確認し、内容を静止すること	
4 .	子ども家庭福祉の制度と実施体制 関係法令と改正についてのポイントと実施体制の専門機関	子ども家庭を支援する法律の種類をテキストで確認し、その専門機関の内容を整理すること	
5 .	子ども家庭福祉の施設と専門職 児童福祉施設の措置と利用の施設の専門性	措置と利用についての区分を調べ、それぞれの過程を整理すること	
6 .	少子化と地域子育て支援 子ども・子育て支援制度の概要と社会的な役割について	子ども・子育て支援法の目的について一読し、制度内容を整理すること	
7 .	母子保健と子どもの健全育成 わが国の母子保健の制度と健全育成の施策と課題	母子保健法の理念について、法律で調べ、制度内容を整理すること	
8 .	多様なニーズへの対応 教育・保育施設、地域型保育事業と事業所等の支援	保育施設の種類を調べ、その役割について整理すること	
9 .	子ども虐待、ドメスティックバイオレンスとその防止施策 子どもに与える影響と防止施策を学習する	DV法の目的を一読し、防止・支援のための制度を整理すること	
10 .	貧困家庭、外国籍の家庭支援 子どもの貧困の背景因子を学習する	子どもの貧困の背景について理解する	
11 .	社会的養護 社会的養護の概念と施設について学習する	社会的養護とは何かを調べ、その種類の各種役割を整理すること	
12 .	障がいのある子どもへの対応 障がい児童支援の考え方	障害の種類について調べ、各障害の内容と支援について整理しておくこと	
13 .	少年非行等についての対応 少年非行の現状と支援のシステム	少年法の目的を一読し、司法と福祉の連携を整理しておくこと	
14 .	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 ワークライフバランスと支援の制度を学習	テキストを一読し、子育てしやすい労働環境について整理しておくこと	
15 .	子ども家庭福祉の動向と展望 地域における連携・協働とネットワークの必要性和諸外国の動向	児童委員制度について事前に調べ、地域社会役割について整理しておくこと	
教科書	児童育成協会監修「子ども家庭福祉」中央法規		
参考書	必要に応じて、資料プリントを配布します。		
学習成果の評価方法	授業内課題(20%)、定期試験(80%)、単元ごとに、復習問題を実施し課題のフィードバックを行います。		
特記すべき事項	福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月) 各授業において予習2時間、復習2時間を必要とする。		
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		

科目	障害児保育	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	村上有希	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。個々の特性や心身の発達等に 応じた援助や配慮について事例を通して考え、保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。障害児その 他の 特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や連携・協働について理解し、現代の現状や課題について思考する。 本授業は幼児教育学科の学習成果(2)に対応する。		
到達目標	1. 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2. 個々の特性や心身の発達等に 応じた援助や配慮について理解する。 3. 配慮を要する子どもの保育の計画作成や援助の具体的な方法について理解する。 4. 家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。		
学習成果の 評価基準	授業内でノート記入やワークプリントを行う。振り返りの試験と合わせて、ノート作成や授業内課題の状況を勘案し総合的に評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	障害児保育を支える理念、「障害」の概念と障害児保育の歴史の変遷、障害児保育の基本	自身の「障害」のイメージを振り返る	
2.	障害児等の理解と保育における発達の援助 肢体不自由児の理解と援助	前回の復習をしておく	
3.	障害児等の理解と保育における発達の援助 知的障害児の理解と援助	前回の復習をしておく	
4.	障害児等の理解と保育における発達の援助 視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	前回の復習をしておく	
5.	障害児等の理解と保育における発達の援助 発達障害児の理解と援助(ADHD・LD)	前回の復習をしておく	
6.	障害児等の理解と保育における発達の援助 発達障害児の理解と援助(PDD・ASD)	前回の復習をしておく	
7.	障害児等の理解と保育における発達の援助 重症心身障害児、医療的ケア児、その他特別な配慮を要する子どもの理解と援助	前回の復習をしておく	
8.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 指導計画及び個別の支援計画の作成 個々の発達を促す生活や遊びの環境	前回の復習をしておく	
9.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 子ども同士の関わりと育ち合い 障害児保育における子どもの健康と安全	前回の復習をしておく	
10.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 職員間の連携・協働	前回の復習をしておく	
11.	家庭との連携 保護者や家族に対する理解と支援 保護者間の交流や支え合いの意義とその支援	前回の復習をしておく	
12.	自治体・関係機関との連携 制度の理解と地域における自治体や関係機関(保育所、児童発達支援センター等)、小学校	前回の復習をしておく	
13.	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 保健・医療における現状と課題 福祉・教育における現状と課題	前回の復習をしておく	
14.	障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解	前回の復習をしておく	
15.	支援の場の広がりをつながり	これまでの授業内容を振り返っておく	
教科書	「障がい児保育の基本と課題」2016年(编者:井村圭壯、今井慶宗)		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度 25%、振り返り試験 85% 授業内の指定された課題への取り組みは、次回授業内でフィードバックする。		
特記すべき 事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等 の受付	メールにて随時受付 (murakami@kyushuotani.online)		

科目	保育心理	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	岡田健一・吉柳佳代子	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>本科目は、保育心理士（二種）養成課程の科目である。保育心理士資格の概要や専門性への理解を深めるとともに、保育心理士養成課程の学びの基礎を培う。授業の一部は、1日ワークショップ（5コマ対応）として開講する。 本授業は幼児教育学科の学習成果（心理）に対応する。</p>		
到達目標	<p>1．保育心理士の仕事について理解するとともに、保育心理士にふさわしい子ども観、態度を身につける 2．保育心理士として子どもや保護者と関わるために必要な人間性やコミュニケーション技術の基礎を学ぶ 3．子ども理解と観察の視点を学ぶ</p>		
学習成果の評価基準	<p>到達目標に明示している3点の到達度を測るために、受講態度（積極的参加）に加えて、授業課題と1日WSレポート課題を実施し、評価する。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1．	オリエンテーション 保育心理士資格の背景と役割、日本の環境と子どもの現状、保育現場の新しい課題	教科書(1)を読む	
2．	学びの動機と目的、保育心理士にふさわしい子ども観、態度	配布資料を読み直す	
3．	感性のトレーニング1（からだで感じる）	配布資料を読み直す	
4．	感性のトレーニング2（気持ちとの距離を考える）	配布資料を読み直す	
5．	感性のトレーニング3（気持ちや感じを尊重する）	配布資料を読み直す	
6．	0歳～5歳の発達1：教科書発表	教科書(2)をまとめる	
7．	0歳～5歳の発達2：教科書発表	教科書(2)をまとめる	
8．	0歳～5歳の発達3：教科書発表	教科書(2)をまとめる	
9．	障害のある子ども、アセスメント、発達の特性に合わせた保育	教科書(1)を読む	
10．	感覚統合	教科書(1)を読む	
11．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション1（リラックスと表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
12．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション2（信頼とコミュニケーション）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
13．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション3（想像と創造）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
14．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション4（共感と協同）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
15．	一日ワークショップ（WS） コミュニケーション5（イメージ表現）	ワークショップを振り返り、レポートを作成する	
教科書	<p>(1)牧野桂一・山田真理子（編）(2007):保育心理．樹心社． (2)山田真理子(1997):機微を見つめる - 心の保育入門 - ．エイデル研究所．</p>		
参考書	<p>山田真理子・原陽一郎(2007):抱っこしてもいいの？ - Q&amp;A子どもに学ぶ子育てのヒント - ．エイデル研究所．</p>		
学習成果の評価方法	<p>授業課題40%、教科書発表30%、1日WSレポート30%</p>		
特記すべき事項	<p>保育心理士（二種）必須 単位取得のためには、2022年4月16日（土）に実施されるWSに必ず参加すること。</p>		
質問・相談等の受付	<p>質問・相談は、授業後の立ち話が研究室で受け付ける。</p>		

科 目	保育実習 (保育所) 1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・村上有希・永山 寛	授業形態 単位数	実習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用力を養い、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。</p> <p>保育実習Ⅰ(保育所)では、認可保育園で60時間(原則10日間)以上の保育実習を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果(6)に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>		
学習成果の評価基準	上記の到達目標に対して、学びの具体的な方法を学生自身で計画し取り組む。実習先での実習の取組と、その記録を総合して評価とする。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり</li> <li>(2) 保育所保育指針に基づく保育の展開</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録による理解</li> <li>(2) 子どもの発達過程の理解</li> <li>(3) 子どもへの援助や関わり</li> </ol> </li> <li>3. 保育内容・保育環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育の計画に基づく保育内容</li> <li>(2) 子どもの発達過程に応じた保育内容</li> <li>(3) 子どもの生活や遊びと保育環境</li> <li>(4) 子どもの健康と安全</li> </ol> </li> <li>4. 保育の計画・観察・記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携・協働</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習開始前までに事前打ち合わせを行うこと</li> <li>・実習先からの指示に対して事前準備や対応を行うこと</li> <li>・実習の記録に必要事項が記録されていること</li> <li>・実習中は、科目担当教員に加え、巡回担当教員、実習先の実習指導者の支持を受け、学びを深めること</li> <li>・実習の学びや、実習目標についての取組を振り返ること</li> </ul> <p>(予習・復習に30時間必要)</p>	
教科書	大豆生田啓友ら(編)(2020):これからの時代の保育者養成実習ガイド・中央法規。		
参考書	無藤隆・汐見稔幸(編)(2017):イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK。学陽書房		
学習成果の評価方法	受講態度(20%)、園評価(50%)、実習記録(30%)		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導(保育所)と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。</li> <li>・保育実習(保育所)には、実習のための費用が必要となる(細菌検査、給食の実費等)。</li> </ul>		
質問・相談等の受付	研究室にて受け付ける		



科 目	保育実習（施設）1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	村上有希・河村陽子・永山 寛	授業形態 単位数	実習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践する応用力を養い、保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とした科目である。</p> <p>保育実習Ⅰ（施設）では、保育所をのぞく児童福祉施設等で保育実習を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（6）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>		
学習成果の評価基準	<p>上記の目標に対して、学びの具体的な方法を学生自身で計画し取り組む。実習終了後、自身の取り組みと目標の達成状況に対して自己評価を行う。児童福祉施設等での実習の取り組みと、その記録、実習後の自己評価での省察を総合して評価とする。</p>		
	授 業 計 画（ 授 業 内 容 ）	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
	<p>&lt; 児童福祉施設等(保育所以外)における実習の内容 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり</li> <li>(2) 施設の役割と機能</li> </ol> </li> <li>2. 子どもの理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの観察とその記録</li> <li>(2) 個々の状態に応じた援助や関わり</li> </ol> </li> <li>3. 施設における子どもの生活と環境 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 計画に基づく活動や援助</li> <li>(2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応</li> <li>(3) 子どもの活動と環境</li> <li>(4) 健康管理、安全対策の理解</li> </ol> </li> <li>4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 支援計画の理解と活用</li> <li>(2) 記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 保育士の業務内容</li> <li>(2) 職員間の役割分担や連携</li> <li>(3) 保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> </ol> <p>実習日数はおおむね10日間（60時間以上）とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習開始前までに、事前打ち合わせを行うこと</li> <li>・実習施設からの指示に対して事前準備や、対応を行うこと</li> <li>・実習の記録に必要事項が記録されていること</li> <li>・実習での学びを日誌へ記載すること</li> <li>・実習での学びや、実習目標についての取り組みを、振り返り、全体のまとめを作成すること</li> <li>・実習中は、科目担当教員に加え、巡回担当教員、施設の実習指導者の指導を受け、学びを深めること</li> </ul> <p>（予習・復習に30時間必要）</p>	
教科書	<p>「保育福祉小六法2021年版」保育福祉小六法編集委員会（編）：2021年、みらい</p> <p>「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友、他（編著）：2020年、中央法規出版</p>		
参考書	<p>駒井美智子（編著）（2014）：施設実習ガイド - 保育者として成長するための事前事後学習 - . 萌文書林 .</p>		
学習成果の評価方法	<p>施設評価 50%、実習記録 30%、課題への取り組み 20%</p> <p>実習施設評価、記録物の内容については、授業内でフィードバックする。</p>		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習指導（施設）と合わせて単位認定を行うため、合わせて履修すること</li> <li>・実習に必要な感染予防が必要である、さらに実費（食事・宿泊代）が伴う場合がある</li> </ul>		
質問・相談等の受付	<p>メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）</p>		

科目	実習基礎演習	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	恒賀康太郎・橋本真理子・樋口光融・永山 寛・河村陽子	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	基礎的な実習指導の後、現場実習を行い、子どもたちの育ちの姿とそれに対する保育者の支援を観察し記録する。実習後には、アフターミーティングを行う。1年次後期より始まる各種実習はこの科目を履修しておくことを条件とする。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭の資格取得にあたり、乳幼児に直に接することによって、その育ちの姿を知ると共に、保育所・幼稚園での支援の概要を理解できる。子どもや保育への基礎的理解を体験を通して深めることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているように、乳幼児に直に接することによって、その育ちの姿を知ると共に、保育所・幼稚園での支援の概要を理解できているか、また、子どもや保育への基礎的理解を体験を通して深めることができているかを評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	ガイダンス(当科目の概要と在学中の実習について)	スーツ着用・頭髪等の身だしなみを整えておくこと	
2.	"実習の心構え、保育者の倫理 実習園の種類や特徴"	スーツ着用・頭髪等の身だしなみを整えておくこと	
3.	実習の準備(実習生カード、身だしなみ)	実習候補先の場所確認と交通手段の把握、資格・ボランティア歴等の把握	
4.	実習の準備(写真撮影、名札の製作)	実習候補先の場所確認と交通手段の把握、資格・ボランティア歴等の把握	
5.	実習生の心構え(秘密保持)	指示された書類の作成提出を済ませておく。	
6.	施設実習アフターミーティング報告会への参加	指示された書類の作成提出を済ませておく。	
7.	対象理解の方法、記録のとり方	指示された書類の作成提出、実習に必要な物品の準備	
8.	打合せの目的と方法、実習の準備(細菌検査等について)	指示された書類の作成提出、実習に必要な物品の準備	
9.	記録のとり方	グループ内での連絡体制を確認しておく	
10.	実習の準備(打合せ持参書類)、巡回指導について	グループ内での連絡体制を確認しておく	
11.	実習打合せ	質問事項の準備、実習園への経路確認	
12.	実習打合せ	質問事項の準備、実習園への経路確認	
13.	"A班:基礎実習 B班:記録のとり方"	実習にあたっての心構えの再確認、必要物品、身だしなみの確認	
14.	"A班:基礎実習 B班:記録のとり方"	実習にあたっての心構えの再確認、必要物品、身だしなみの確認	
15.	"A班:記録のとり方 B班:基礎実習"	実習にあたっての心構えの再確認、必要物品、身だしなみの確認	
教科書			
参考書	『保育所保育指針解説』『幼稚園教育要領解説』		
学習成果の評価方法	"受講態度(30%)授業内課題(70%)"		
特記すべき事項	今後の各実習の基本となる学びの場である。真摯な態度で臨むよう心がけること。この科目を履修することを、以後の実習指導・実習の要件とする。各授業において予習60分、復習60分を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科目	実習基礎演習	開講時期 履修方法	1年前期 選択、専門科目
担当者	恒賀康太郎・橋本真理子・樋口光融・永山 寛・河村陽子	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	基礎的な実習指導の後、現場実習を行い、子どもたちの育ちの姿とそれに対する保育者の支援を観察し記録する。実習後には、アフターミーティングを行う。1年次後期より始まる各種実習はこの科目を履修しておくことを条件とする。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭の資格取得にあたり、乳幼児に直に接することによって、その育ちの姿を知ると共に、保育所・幼稚園での支援の概要を理解できる。子どもや保育への基礎的理解を体験を通して深めることができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているように、乳幼児に直に接することによって、その育ちの姿を知ると共に、保育所・幼稚園での支援の概要を理解できているか、また、子どもや保育への基礎的理解を体験を通して深めることができているかを評価する。		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
16.	"A班：アフターミーティング B班：基礎実習 "		
17.	"A班：基礎実習 B班：記録のとり方 "		
18.	"A班：基礎実習 B班：アフターミーティング "		
19.	"A班：記録のとり方 B班：基礎実習 "		
20.	"A班：アフターミーティング B班：基礎実習 "		
21.	"A班：基礎実習 B班：記録のとり方 "		
22.	"A班：基礎実習 B班：アフターミーティング "		
23.	"A班：記録のとり方 B班：基礎実習 "		
24.	"A班：アフターミーティング B班：基礎実習 "		
25.	"A班：基礎実習 B班：記録のとり方 "		
26.	"A班：基礎実習 B班：アフターミーティング "		
27.	"A班：記録のとり方 B班：基礎実習 "		
28.	"A班：アフターミーティング B班：基礎実習 "		
29.	"A班：記録のとり方 B班：アフターミーティング "		
30.	まとめ		
教科書			
参考書	『保育所保育指針解説』 『幼稚園教育要領解説』		
学習成果の評価方法	"受講態度 (30%) 授業内課題 (70%)		
特記すべき事項	今後の各実習の基本となる学びの場である。真摯な態度で臨むよう心がけること。この科目を履修することを、以後の実習指導・実習の要件とする。各授業において予習60分、復習60分を必要とする。		
質問・相談等の受付			

科 目	実習基礎指導	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	恒賀康太郎・橋本真理子・樋口光融・永山 寛・河村陽子	授業形態 単位数	講義 1単位
授業概要	基礎的な実習指導の後、実習を想定した観察の視点や記録の方法を学ぶ。1年次後期より始まる各種実習の条件である「実習基礎演習」において補充的な学びが必要な学生を対象に集中講義で行う。本授業は幼児教育学科の学習成果(3)に対応する。		
到達目標	保育士・幼稚園教諭の資格取得にあたり、乳幼児の理解と保育所・幼稚園での支援の概要を理解することができる。子どもや保育への基礎的理解を深めるとともに、実習の基本的姿勢を養うことができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示しているように、乳幼児の理解と保育所・幼稚園での支援の概要を理解することができるか、また、子どもや保育への基礎的理解を深めるとともに、実習の基本的姿勢を養うことができているかを評価する。		
	授 業 計 画 ( 授 業 内 容 )	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1 .	"2年間の実習の概要を理解する 実習の目的について理解し心構えを養う"	実習にふさわしいと思われる服装・頭髪等の身だしなみを整えておくこと	
2 .	実習準備の方法(書類作成、身だしなみや打合せの目的)	今後の実習候補先について考え、園の特色等について把握しておく	
3 .	実習記録の取り方	状況や行動を記録する練習。	
4 .	実習記録の取り方	観察対象の気持ちを考え分析して記録する練習。	
5 .	保育環境の理解	保育環境についての復習とまとめ。	
6 .	保育環境の理解	環境から子どもの行動を予測したり、ねらいに基づき環境構成を考える練習。	
7 .	実習記録の整理の方法	実習記録のとり方についての復習。	
8 .	まとめ	実習に向けて必要な準備、心構え、この科目での学びについてレポートにまとめる。	
9 .			
10 .			
11 .			
12 .			
13 .			
14 .			
15 .			
教科書			
参考書	『保育所保育指針解説書』 『幼稚園教育要領解説書』		
学習成果の評価方法	"受講態度 (30%) 授業内課題 (70%)		
特記すべき事項	各授業において予習30分、復習30分を必要とする。		
質問・相談等の受付			



科目	保育実習指導 (保育所) 1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	河村陽子・村上有希・永山 寛	授業形態 単位数	演習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。          保育実習指導 (保育所)では、保育実習I (保育所)に必要な実習指導を行う。          本授業は幼児教育学科の学習成果(4)に対応する。</p>		
到達目標	<p>1. 保育実習の意義・目的を理解する。          2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。          3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。          4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。          5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p>		
学習成果の評価基準	<p>&lt;実習前&gt;・到達目標に明示している、保育実習 (保育所)にかかる1~4について理解度を測るために確認テスト・課題や口頭での確認等を実施し評価する(30)・保育実習 (保育所)にかかる必要な手続きを進められる(50)          &lt;実習後&gt;・到達目標に明示している5について、課題やグループワーク等を実施し評価する(20)</p>		
	授業計画(授業内容)	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	シラパスを読んでおく	
2.	保育実習の意義 (2) 実習の目的	実習の目的を復習する	
3.	保育実習の意義 (3) 実習の概要、実習先との手続きについて	実習の手続きを復習する	
4.	実習の内容と課題の明確化 (2) 実習の内容	実習の内容を復習する	
5.	実習の内容と課題の明確化 (3) 実習の課題、実習目標の作成について	実習の課題について復習する	
6.	実習に際しての留意事項 (2) 子どもの人権と最善の利益の考慮	児童の権利に関する条約を予習しておく	
7.	実習に際しての留意事項 (3) プライバシーの保護と守秘義務	守秘義務について復習する	
8.	実習に際しての留意事項 (3) 実習生としての心構え、事前打ち合わせについて	事前打ち合わせについて復習する	
9.	実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践	学んだことを復習する	
10.	実習の計画と記録 (2) 実習における計画と実践	学んだことを復習する	
11.	実習の計画と記録 (2) 実習における観察、記録及び評価	記録を整理しておく	
12.	実習の計画と記録 (2) 実習における観察、記録及び評価	記録を整理しておく	
13.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価	実習の振り返りをしておく	
14.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化	実習の振り返りをしておく	
15.	事後指導における実習の総括と課題の明確化 (2) 課題の明確化	次回の実習へ向けて課題を整理しておく	
教科書	大豆生田啓友ら編著『これからの時代の保育者養成実習ガイド』中央法規2020		
参考書	無藤隆・汐見稔幸編『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBook』学陽書房2017		
学習成果の評価方法	受講態度・実習に関する手続き(50%)、事前学習(30%)、事後学習(20%)		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習 (保育所)と合わせて履修すること。合わせて単位認定を行う。</li> <li>・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること。</li> </ul>		
質問・相談等の受付	研究室にて受け付ける		

科目	保育実習指導（施設）1年	開講時期 履修方法	1年後期 選択、専門科目
担当者	村上有希・河村陽子・永山 寛	授業形態 単位数	演習 0単位
授業概要	<p>保育実習は、それまでに習得した教科全体の知識、技能を基盤とし、これらを総合的に実践す応用力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について学ぶ。</p> <p>保育実習指導Ⅰ（施設）では、保育実習（施設）に必要な実習指導を行う。</p> <p>本授業は幼児教育学科の学習成果（4）に対応する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。</li> </ol>		
学習成果の評価基準	<p>実習前</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習（施設）にかかる必要な手続きが行えることを評価する</li> <li>・実習の目標について具体的な課題に気づき、取り組みの方法を自身で計画したかを評価する</li> </ul> <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の目標の達成状況、実習での取り組みについて自己評価をし、自身の課題への学びを評価する</li> <li>・実習の報告を行うことで学びを共有し、他の施設の概要への気づきを評価する。</li> </ul>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション 保育実習の意義・目的と概要、実習指導授業の進め方	疑問点があれば質問を考えておく	
2.	実習施設の理解：発表準備	教科書の該当する部分を読んでおく	
3.	実習施設の理解：発表	発表準備を行う	
4.	実習施設の基本情報（目的、対象、設置基準等）の確認	自分の実習予定を確認する	
5.	実習施設の基本情報（目的、対象、設置基準等）の確認	基本情報を覚えてくる	
6.	実習に際しての留意事項（倫理綱領、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、観察の視点、記録および評価）	教科書の該当する部分を読んでおく	
7.	実習目標の作成 1	実習目標を立てる	
8.	介護の体験	学んだことを復習しておく	
9.	実習目標の作成 2	実習目標を完成させる	
10.	直前指導、実習生としての心構え	実習準備の総まとめを行う	
11.	児童福祉施設等実習の事後指導 1 実習の統括と自己評価	実習日誌等で自身の実習の振り返りしておく	
12.	児童福祉施設等実習の事後指導 2 実習の統括と自己評価、課題の明確化	報告会のレポートを作成する	
13.	児童福祉施設等実習の事後指導 3 実習の統括と自己評価、課題の明確化	報告会のレポートを作成する	
14.	児童福祉施設等実習のまとめ（実習報告）	報告会の準備	
15.	児童福祉施設等実習のまとめ（実習報告）	報告会の振り返り 実習の学びの振り返り	
教科書	<p>「保育福祉小六法2021年版」保育福祉小六法編集委員会（編）：2021年、みらい</p> <p>「学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド」大豆生田啓友、他（編著）：2020年、中央法規出版</p>		
参考書	岡本幹彦・神戸賢次・喜多一憲ほか（編）（2013）：保育士養成課程 四訂 福祉施設実習ハンドブック・みらい。		
学習成果の評価方法	受講態度・手続き 40%、事前学習 15%、事後学習 45% 手続き等、随時必要に応じて実施できているかの確認を行い、フィードバックします。		
特記すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習（施設）と合わせて単位認定を行うため、合わせて履修すること</li> <li>・実習に関する手続きを含む授業内容のため、欠席せざるを得ない事情がある場合は担当者へ連絡すること</li> </ul>		
質問・相談等の受付	メールにて随時受付（murakami@kyushuotani.online）		